

第19回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和元年5月30日（木） 14:00～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】(敬称略)</p> <p>光村 克巳 (岐阜乗合自動車株式会社営業管理部長)</p> <p>吉岡 実 (名鉄バス株式会社営業本部運行部運行課運行課長)</p> <p>豊田 智隆 (東海旅客鉄道株式会社鉄道事業本部総務課課長代理)</p> <p>菱田 純二 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>山田 健太郎 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長) (代理:坂 政佳)</p> <p>林 直樹 ((公社)岐阜県バス協会専務理事) (代理:佐藤 浩一)</p> <p>鷺見 高志 (岐阜乗合自動車労働組合執行委員長)</p> <p>坂井 俊郎 (蘇原自治会連合会長)</p> <p>松岡 節夫 (那加自治会連合会長)</p> <p>水上 将司 (鶯沼自治会連合会長)</p> <p>近藤 亜矢子 (子ども子育て会議委員)</p> <p>鈴木 隆史 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>中村 澄之 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>沢木 利勝 (岐阜土木事務所施設管理課長)</p> <p>吉田 三紀 (各務原警察署交通課長) (代理:宮内 和人)</p> <p>水野 昭人 (岐阜県都市建築部公共交通課長) (代理:栗山 徹子)</p> <p>坂澤 博光 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>倉内 文孝 (岐阜大学教授)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部商工振興課</p>

- ・市長あいさつ
- ・議事
  - ①各務原市地域公共交通会議の役員選任
  - ②平成30年度決算及び事業報告
  - ③令和元年度予算及び事業計画
  - ④地域内フィーダー系統確保維持計画の申請
- ・報告
  - ①平成30年度利用状況の報告
  - ②ふれあいバス・ふれあいタクシーの改正内容(10月1日)
- ・その他
- ・岐阜大学工学部・倉内文孝教授による講話「モビリティ進化とまちづくり」

■市長あいさつ

市長 挨拶

本日は暑い中、第19回各務原市地域公共交通会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。  
ふれあいバスについては、平成27年10月にリニューアルして以降、年々利用実績も上昇して、ふれあいタクシーに関しても地域の方々に上手にお使いいただけていると感じますが、一方で、すべての方が満足できている状況ではありません。

地域・市民の方々の足の確保については、鉄道・民間主体のバス・タクシーとも連携してネットワーク形成することが重要です。

委員の皆様には、本協議会の場にて、地域の課題や要望についてご意見を頂き、議論の場にしていただきたいと思いますと考えております。近年、他の産業と比較しても、輸送業の人手不足は特に深刻となっております。協議会終了後には、岐阜大学の倉内教授から公共交通の現状について講話があるということで、皆様が議論するにあたってヒントを得ていただけるような、有意義な時間にしていただきたいと思います。

■議事

- ・議事① 各務原市地域公共交通会議の役員選任

※委員からの質問や意見は、なし

- ・議事② 平成30年度決算及び事業報告

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<那加自治会連合会長 松岡委員> ● 報償費について、免許返納者への支援とは具体的にどういったものか。	<事務局> 市内在住で運転免許証を自主返納した方に対し、manaca (マナカ)、TOICA (トイカ)、ayuca (アユカ) の各交通系 IC カードのうちいずれか1種類、3,000円分をお渡しし、公共交通機関を利用するきっかけ作りを行っている。

報告・意見

<各務原警察署 宮内委員>

運転免許の自主返納については、毎月30件～40件ほどの実績がある。

東京・池袋で発生した高齢ドライバーによる死亡事故などもあり、自分自身の運動能力などの体の状態とも照らし合わせて考えていただき、自主返納を案内している状況。

各務原市の支援内容については、警察署でも説明し、自主返納を勧めている。

報告・意見

<岐阜運輸支局 鈴木委員>

- (国の制度について補足として、) 地域公共交通確保維持改善事業とは、毎年10月から翌年9月を基準年度とし、運行にかかった費用に対して国が補助を行う制度である。補助を受けるにあたっては、あらかじめ6月末までに事業計画を定め、提出することになる。  
地域公共交通網形成計画は、「地域公共交通活性化再生法」に基づいて、地域の交通のことは地域で話し合って決めていくための計画として、現在約430の自治体が作成している。
- 昨年度実施したアンケートの調査結果、また、「地域公共交通網形成計画」(前期計画)の成果指標について、「満足度」と「不満割合」の表現が使われているため、若干分かりづらい部分がある。  
次期(後期)の計画策定においては、「満足度」を「上げる」のか、「不満割合」を「下げる」のかの方向性は揃えた方がよい。また、「時間」「本数」が不満内容の大半なので、そこを解決しないと達成できないのではとの懸念もある。  
また、事業内容についても、設定した目標値を達成できるようなものを考える必要がある。
- 選挙に伴う無料乗車期間の設定や、無料お試し期間の設定については、現場の運転手の負担にも配慮して、周知の時間に余裕を持って進めていただきたい。

<子ども子育て会議 近藤委員>

- 無料券の配布については、一度乗ってみて利便性を体感するという意味では良いと考える。さらに、謎解きやスタンプラリー等のイベントも、小学生に乗ってもらうのには効果的ではないか。
- 本会議にあたって、PTAの保護者等に聞き取りを行ってみたが、ふれあいバスの認知度は100%であるものの、利用したことがある人はほとんどいなかった。子育て世代には機敏に動きたいというニーズがあり、車の所持率がほぼ100%ということがあるのだと思う。
- ある人からは、「交通の便を選んで駅の近くに土地を購入し、利便性と引き換えに高額な固定資産税を毎年支払っている。そういった人が収めた税金を使って、行政が、土地・税金の安さを選んで駅から離れた場所に住む人のサービスに、どこまでも行政が注力するのか。」といった意見も聞かれた。また、日ごろ寄せられる意見も、地域としてのニーズ(需要)から、個人レベルの単なるウォンツ(欲)までであるが、全てを「需要」と捉えて叶えようとするのも、少し違うのではないかと感じる。
- 運転免許の自主返納については、運転免許証が身分証という認識を持っている人が多いため、進んでいないのではと感じる。そのため、例えばマイナンバーカードの作成を積極的に勧めていくことで促進できるのではないか。

・議事④ 地域内フィーダー系統確保維持計画の申請

報告・意見
<p>&lt;岐阜運輸支局 鈴木委員&gt;</p> <p>本制度のポイントは、フィーダー系統と地域間幹線系統を乗り継いで市外へアクセスできるかという点にある。各務原市の場合は鉄道が東西に走っているため、全てを賄えなければならないことはないが、今後、実績を振り返り、評価する際には留意いただきたい項目である。</p>

■報告

- ・報告① 平成30年度の利用状況について
- ・報告② ふれあいバス・ふれあいタクシーの改正内容（10月1日）

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>&lt;蘇原自治会連合会長 坂井委員&gt;</p> <p>地区ごとの路線にとどまらず、市内全域で市役所を中心とした環状のような形の路線の実現性はどうか。</p>	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>平成27年9月以前の路線は、市内を東西南北に大きく跨ぐ路線であったが、乗合率の低迷や遅延などもあり、現在の路線に改正を実施した。改正の趣旨としては、地区ごとの生活圏を意識して、1便あたりの距離を短くし、運行本数を確保するとともに、ふれあいバスの通っていない地域にはふれあいタクシーを走らせてきめ細かに足を確保した。また、鉄道や路線バスとの乗り継ぎを確保することで地区外への移動についても考慮している。</p>
<p>&lt;那加自治会連合会長 松岡委員&gt;</p> <p>特に尾崎地区では今後も人口減少・高齢化が進行していくと予想され、ふれあいバスの充実にかんする要望も増えてくるのではないかと。</p> <p>また、川島地区では、高校に通学するのに送り迎えしているといった事例もあり、川島・各務地区についても公共交通の充実が必要ではと考えられる。</p>	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>要望を多くいただく地区についても、現在の路線・ダイヤの中で、一部叶えられているものもある。地元へ情報が行き届いていない点は真摯に受け止めて、今後周知に力を入れていく。</p>
<p>&lt;鵜沼自治会連合会長 水上委員&gt;</p> <p>本年秋に、名鉄鵜沼宿駅の北に大型ショッピングモールがオープンする計画がある。開店に伴い公共交通機関での来訪者も増えると思われるので、地域活性化のためにも何かしらの取り組みがあればと考える。</p>	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>ふれあいバス鵜沼線については、イオンタウン敷地内へ将来的に乗り入れる可能性も考えて、現在事業者と調整を進め、停留所を置くスペースについては確保していただける見込み。</p> <p>一方で乗り入れることで運行時間が1便あたり最大10分程度伸びる。そのため、鵜沼線全体で現在の本数を確保するのか、乗り入れることの利便性を選ぶのか、開店後の状況や皆様の意見も踏まえて検討を重ねていく。</p>

## 報告・意見

### <岐阜乗合自動車 光村委員>

運転手の人出不足については、引き続き極めて厳しい状況にある。車両や運転手の数に限りがある中で、本当に必要な路線はどこか見極めながら運行していく。今後も安全第一で、皆様からご利用いただけるように努めていく。

### <岐阜交通東部 石井委員>

ふれあいタクシー乗り方教室などを通して、引き続きふれあいタクシーの周知に力を入れていきたい。乗り方がわからないという方に対しては、実演を交えて予約方法をわかりやすく説明していく。

また、予約締切時間についても出発の30分前まで短縮したことで、利便性は多少向上したと考える。今後も安全に配慮しながら運行していきたい。

## ■その他

- ・岐阜乗合自動車より

## 報告

### <岐阜乗合自動車 光村委員>

岐阜駅と郡上白鳥を結ぶ「高速岐阜八幡線」について、「郡上八幡」と「白鳥」間の路線を本年10月1日付で廃止する。廃止区間の利用者はほとんどない状況で、すべての便を「郡上八幡」止まりとする。

- ・事務局より

## 所見

### <事務局>

各務原市としては、「高速各務原」停留所の利用実績は少ないという岐阜乗合自動車からの報告を受け、住民生活への影響は極めて小さいものと考えている。

報告

<東海旅客鉄道株式会社 豊田委員>

在来線・新幹線の運行に関する情報提供に関する告知。

本年3月16日のダイヤ改正より、新たなシステムと人員体制を導入し、列車の遅延をより詳細に、リアルタイムで発信しているところで、駅や車内のQRコードから容易に情報を得られるようになっている。

■総括

倉内先生 総括・指摘事項

後期計画を策定するにあたって、昨年度アンケート調査の結果で、川島地区の公共交通に関する評価が低い点があったが、それに対して、今後どこにターゲットを絞って対応していくかが重要となる。また、前期計画5年間に取り組んだ事業についても、実績をしっかりと評価して次につなげることが重要である。

今年度事業については、参議院議員選挙との連携等新たな取り組みもあるが、公共交通単体ではなく様々なコンテンツと組み合わせて考えていただきたい。

車内装飾については、そこからさらに派生して、バスをスペースとして貸し出す仕組みを整えるのも面白いと感じている。